

地名の由来と史跡と文化財

南総地区（牛久編）



牛久三嶋神社

上総の国いちはらの歴史を知る会

（ふるさと市原をつなぐ連絡会会員）

令和3年2月編集・製作

まえがき

人類は、今から700万年前にアフリカ大陸でサル類（チンパンジー）から枝分かれして「二足歩行の人類」となった。その後徐々に進化し約10万年前に一部の人類がアフリカを出ていくつかの人種に変化し大陸に住み着きました。

旧石器時代（先土器時代・無土器時代）～紀元前1万4千年前頃、我が国にも大陸から渡り来て住み着いたと思われます。その頃の日本列島はユーラシア大陸と地続きであり、彼らはマンモスやナウマン象、大角鹿などの大型動物を追いかけて日本列島にやってきた。食料調達には、主に狩猟や採取を行い、石を打ち砕いて造られた打製石器を使用した。食器などはなかった。

私たちの住みます「いちほら」にも人が住み始めて3万年の歳月が過ぎ、いくつかの大規模な集落が出来てきました。そして弥生時代になると大陸から稲作が持ち込まれ、肥沃な土地では稲作が行われるようになり、権力者による統治が始まった頃と思われます。その中で、大変興味深い説があります。縄文時代の頃に、日本列島に太平洋南方より現ポリネシア語（マオリ語）を話す民族が渡来し、住み着いた人たちが初めて地名を付けたという説です。それらの古い時代に付けられた今とあまり変わらない発音で、今も多く使われています。その中でも「古事記」や「日本書紀」などの古典や日本語の中にも、多くの現ポリネシア語源の言葉を見ることができますが、文字で表すものはありませんでした。

しかし弥生時代になると朝鮮半島より渡来した人により漢字が伝わって来て、今まで言葉で伝えられていた呼び方に、適当な漢字を当てはめたものです。例えば、日本の象徴の山「富士山」は、マオリ語では「フチ（HUTI）」「引き上げられた山、または釣り上げられた山」という意味となります。そして、浅間神社は熊野神社と並び最古の部類の神社とされますが、富士山の神を祀る「式内富知（ふち）神社」が最も古い神社とされます。

縄文時代には、争いごとは少なかったと言われていたと言われますが、水稻耕作が始まった弥生時代になると「定住民」が増えることにより、土地の利権争いが起き、古くから住んでいた縄文人は弥生人に圧倒されることになった。但し、古くからあった地名すべてが「現ポリネシア語（マオリ語）」という訳ではありません。

北海道には「アイヌ民族」のアイヌ語があり、沖縄には「琉球民族」が話す「琉球語」が存在する。

また、それぞれの地方には「方言」があり、その地方特有の言葉があります。

参考ですが、古来より「サ」が付いた名には「神様」に関係したものが多く見られます。

例えば、神社の敷地内は「境内（ケイダイ）」という聖域と一般の地を分ける「さかいめ」があり、神様が山から「さと（里）」に下ってくる道を「さか（坂）」と言います。また、祀りの際の神様の貴賓席を「さじき」と呼び、庶民は地面の芝に座ったので「芝居」という言葉が生まれたと言われています。

今回は、上総国市原郡内の中央部に位置します「三和地区」の地名の由来と、その地にある史跡や文化財などを紹介します。



市原郡内の牛久地区の地名の由来

千葉県の名の由来

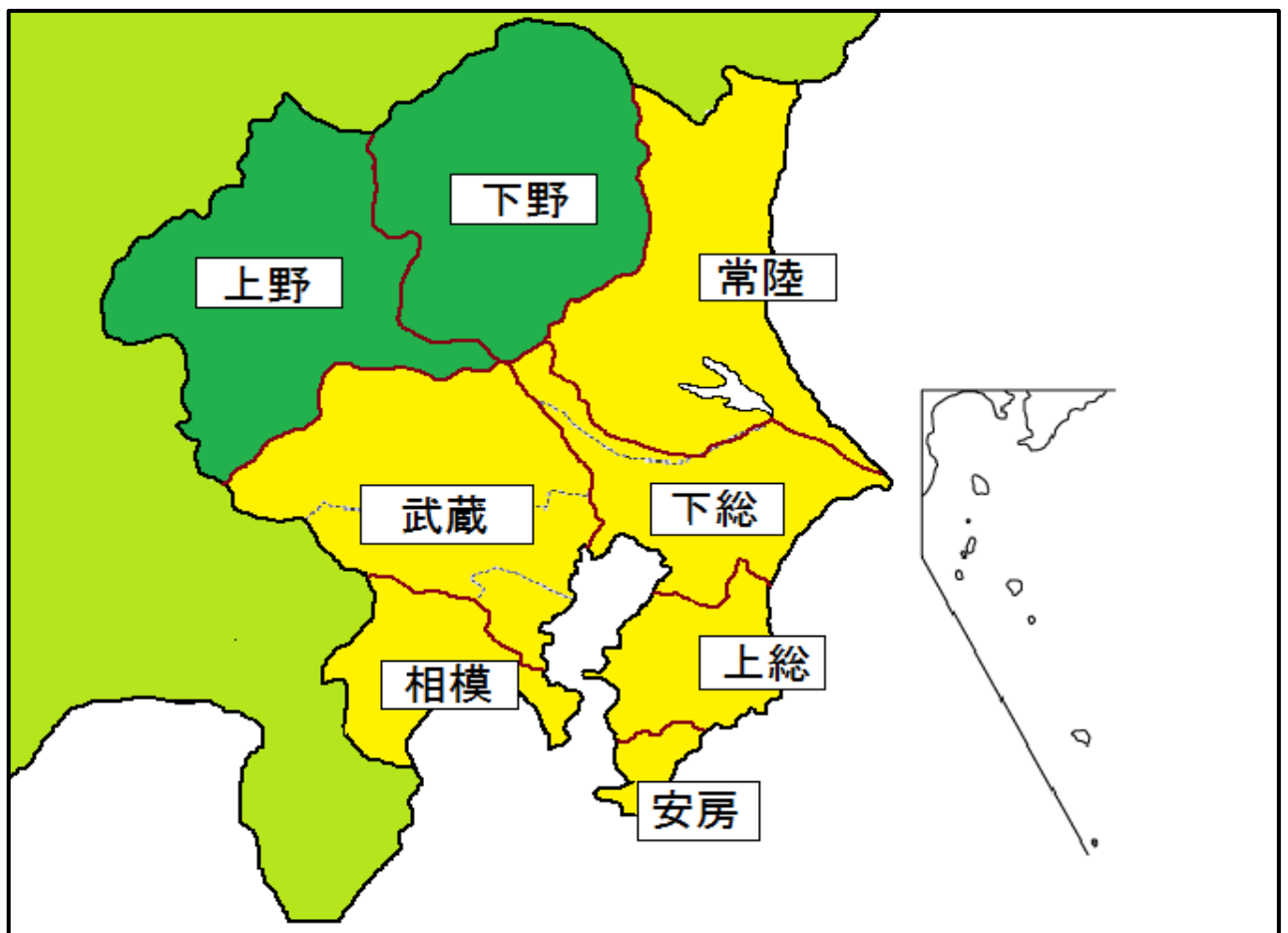
千葉県は江戸期までは総国（ふさのくに）と呼ばれており、茨城県南西部の一部と埼玉県東部の一部も含まれていました。この地域は7世紀後半の令制国の建置により、上総国と下総国が成立しその後養老2年（718年）に上総国から4郡が分かれ安房国が誕生した。

「総」の語源は、「古語拾遺」によると、「天富命（あまとみのみこと）」が安房国から齊部氏を率いて東上し、麻を植えたところ、良い麻が生えたので、総（麻）の国としたという説と、「風土記逸分」によると「総」とは木の枝を言い、昔この国に大きな数百丈のクスの木が生えていたが、大凶事との占いが出たので切り倒したところ、南に倒れたので、上の枝を「上総」と言い、下の枝を「下総」と言ったと記されているが、いずれも根拠が弱く、他にも「塞ぐ」からで「山などが周囲にある土地」や「ふし」の転訛で「高い所」の意味する説などがあるが、現在では朝廷の都に近いほうが上であり「上総」と付けられたという説が正しいと考えられる。

なお、「ふさ」はマオリ語で「フ・タ」で、「浸食された丘陵がある地域」の転訛と訳します。

「和名抄」に、下総国相馬郡布佐（ふさ）郷があり、現我孫子市東端の布佐の地域と思われる。上総国には、市原（国府所在地）・海上・畔蒜（あびる）・望陀（ぼうだ）・周淮（すえ）・天羽・夷隅・埴生・長柄・山辺・武射の11郡がある。

下総国には、葛飾・千葉・印旛・埴生・匝瑳・海上・香取・相馬・猿島（さしま）・結城・豊田の11郡が、安房国には、平群（へぐり）安房・朝夷（あさひな）・長狭の4郡で国造りがされた。市原郡は「伊知波良」と書き、中世には市西郡と市東郡に別れ、山田郡も郡域内にあったと思われます。国府の所在郡でもあり郡内には、海部（あま）郷・市原郷・湿津郷・江田郷・菊麻郷・山田郷の6郷があった。江戸期には、このほかに、海北郷・佐是郷など、旧海上郡域も併合された。



市原

市原市の地区別地図

020/9/26

行政区-scaled.jpg (1829×2560)



市原郡内地名の由来と神社、仏閣、史跡、文化財の紹介

※ アンダーライン部は、古代マリオ後（現ポリネシア語）での表現を日本語に転化したもの。

上総国市原郡の6郷

1・海部郷（あまのこう）

平安期にあった郷で、高山寺本の訓は「安万」東急本は「阿万」と呼ばれており、海士有木に比定されている。漁業、航海を中心とした職業的品部に由来する地名。

2・市原郷（いちはらこう）

平安期にあった郷で、市原・能満・門前・郡本付近に比定されている。地名の「イチ」は集落の意味、または「稜威」（いつ）の転嫁で美称か。櫟（いちい）の繁茂する原野の意味とする説もある。

※藤井は、万治2年（1659年）に郡本より分村したのと、山田橋は元は山田郷に属していたので、市原郷には含まれなかった。

3・湿津郷（うるつこう）

平安期にあった郷で、高山寺本の訓は「宇流比豆」、東急本では「宇留比豆」。市原市潤井戸付近に比定される。地名の由来は、「ウルヒ（湿）・ツ（場所）」と考えられる。村田川の上流で、豊富な涌泉があることから命名された地名と思われる。

4・江田郷（えだこう）

奈良期にあった郷で、高山寺本・東急本ともに訓は「衣多」。市原市吉沢付近は古くは江田郷と称したと伝えられ、当郷の比定と思われる。他に、市原市八幡付や市原市江古田などを含む養老川上流右岸の広大な地域を郷域としている。

5・菊麻郷（くくまこう）

平安期にあった郷で、東急本では「菓麻」と書く。訓は、高柳寺本・東急本ともに（久々万）。

市原市菊間付近に比定されている。地名の由来は、「くくまった（包み込まれたような）・地」の意味

6・山田豪（やまだこう）

平安期にあった郷で、東急本の訓は「夜万多」。市原市山田付近に比定されている。

地名の由来は、「山を開いて田を作ったところ」の意味か、「山間の田」あるいは「山処（やまど）」の転嫁で、「山のある処」とも考えられる。

牛久地区（岩・牛久・大蔵・金沢・佐是・中・西国吉・奉免・藪・妙香）

概説

牛久地区の大蔵から縄文早期の尖底土器が出土しているほか、藪・皆吉・西国吉等に縄文遺跡が存在することから、古くから人が居住していたことが分かる。本地区の開発の歴史は確実なところは不明ですが、弥生時代中期まで遡ることが推測される。佐是には、前方後円墳を含む古墳群が存在するほか、牛久・妙香・吉野台などにも古墳群が見られ開拓が進んでいたことが想像される。佐是は「和名抄」にも出て来る古い地名であり、ここには平安時代の末に千葉氏の一族、佐是四郎（伊北庄司掌仲の子息祥師）が居たらしい。

また皆吉郷は鎌倉幕府の記録（吾妻鏡）にも表され開拓の古さを物語っている。戦国時代には、真里谷武田氏の一族武田国信は佐是城（嶽城：かけぎじょう）に在城し、佐是三郎を名乗っていた。

この佐是氏は、1552年椎津城主武田信政が北条氏に内通したことで、里見軍の猛攻を受け、援軍として赴いた佐是氏討死し落城した。

伝説によると、南部の藪（一部は外部田）には藤原不比等の後裔大館氏が構えていたと言われており、勢力範囲は藪・岩・外部田・久保・駒込などの幸田郷であったらしい。この大館氏は約千年前の17代目定重の時に源頼光に攻められ滅びた。この源頼光は後に上総大介となったという伝えがある。その後この地区には、中世城郭が築かれたが池和田城と共に落城したと思われ、北条氏の支配下となり、江戸時代には水野要人を始め多くの旗本の知行となった。寛文年間（1661年）以前は、上宿、中宿の南側に沿って養老川が流れており、この河岸場が2か所あったという。

牛久は宿場町として栄え、八坂神社の祭礼には江戸末期から伝わる牛久ばやしが今でも、上宿、中宿、下宿で7月20日前後に行われ、奉納されている。

明治以後、明治元年7月から御料地となり、柴山文平の支配、同年9月水野出羽守の所領、同年11月には井上正直の所領、明治4年7月には鶴舞県、同年12月に木更津県と目まぐるしく変わり、明治11年郡区町村編成法施行の際、牛久・奉免・妙香・中の4村、西国吉・佐是の2村、皆吉・藪・金沢・大蔵の4村がそれぞれ村連合組織し、岩は久保ほか4ヶ村と共に村連合を組織した。

明治17年戸長役場所轄区域更定の際、これらの村は3つの戸長役場に属していた。明治22年町村編制法に際し、佐是・皆吉・牛久・奉免・妙香・藪・岩・金沢・大蔵・西国吉・中の745戸、4,339人の明治村なる自治体が造られ、その後大正13年に牛久町、昭和29年に南総町、昭和42年に市原市へと合併した。



岩（いわ） 神社・寺院・史跡文化財・城址 長善寺（天台宗）

江戸期は岩村。藪村から分村したと伝えられているが、文禄3年（1594年）には既に1村となっていた。地名の由来は、域内に字岩前・岩の谷があることから、岩が多い土地にちなむ。または「い（接続語）わ（廻）」で、山の周りの土地を指したもの。

長善寺（ちょうぜんじ） 天台宗

所在地 市原市岩134番地
創建時期 江戸時代中期頃と思われる
本尊 不詳
住職 石井 堯将
由緒・伝説 創建年度は不明ですが、石碑に安永7年と記されているものがあり、江戸中期頃にはあったと思われる。



長善寺の本堂の建物。痛みが多く見られる



本堂の正面入口



長善寺入口にある石地藏など



安永7年にたれた石碑

牛久（うしく） 神社・寺院・史跡文化財・城址 丸山神社・三嶋神社・円明院（真言宗豊山派）

天理教高多喜分教会・牛久ばやし・牛久城址

戦国期には牛久の地名があった。江戸期は牛久村。宿場町で牛久町とも称した。

丸山神社（まるやまじんじゃ）

所在地 市原市牛久175番地
創建時期 万治2年（1659年）に創建
旧牛久町牛久字大塚
祭神 天照皇大御神・
宮司 松井 由香里
由緒・伝説 三嶋神社境外末社。元は三山神社。文禄3年（1595年）に、下総国千葉郡椎名村に鎮座していたが、夜な夜な光を放つので人々が驚いて神託を伺ったところ、土地が合わないとのことであった。そこで諸国巡業していた処、慶安4年に上総国市原郡八幡村にて神託を授かったので、牛久に鎮座した。土地は同村の串田重郎右衛門が所有していた山を借り、万治2年（1659年）に創建された。



丸山神社の本殿と石燈籠



参道入り口の鳥居。三山神社と神明神社の名が記されている。



本殿前にも鳥居が建つ



本殿を右側から写す

三嶋神社 (みしまじんじゃ)

所在地 市原市牛久字宮の台522番地

創建時期 慶長3年(1598年)に創建

祭神 大山祇命

相殿 木花咲屋姫命・磐長比咩命

神紋 左三つ巴

宮司 松井 由香里

由緒・伝説 旧村社。長和年中(1012年~1016年)

字神田に勧請されたが、慶長3年(1598年)に永野若狭守の祖・主殿信仰により当地に遷宮して創立。

境内に三社相殿で八坂神社(建素盞鳴命)・金刀毘羅神社(大名持命)・浅間神社(木花開耶姫命)がある。近くに鎮座している三峯神社と山王神社も境内末社と思われる。

三嶋神社拝殿と狛犬



三嶋神社入口の二重の鳥居



拝殿と幣殿奥の本殿の建屋



拝殿正面入口



厄除け用の狛犬



浅間大神の石の祠



金刀毘羅神社の鳥居と社



三峯神社の鳥居と本殿社



三峰神社の本殿社



多くの神を祀った祠群

丸野山円明院 (まるのさんえんめいいん) 真言宗豊山派)

所在地 市原市牛久905番地

創建時期 慶安3年(1651年)に創建

本尊 不詳

住職 加藤 快雄

由緒・伝説 円明院は、安土桃山時代末期の慶安3年に創立された古刹です。現本堂は、平成15年に建て替えられ合わせて鐘楼も平成17年に建立した。



平成15年に建て替えられた本堂



寺院入口の寺標の石門



本堂入り口の上の扁額



平成17年に建立の鐘楼



境内の中の仏像と建屋



諸国巡礼姿の弘法大師像



宝篋印塔の石塔も奉納

天理教高多喜分教会 (てんりきょうたかたきぶんきょうかい)

所在地 市原市牛久256番地
創建時期 不詳
本尊 不詳
住職 鶴岡 理
由緒・伝説 不詳

天理教の本堂



牛久ばやし (市原市指定文化財)

所在地 牛久地区
所有者 牛久ばやし保存会
種類 無形民俗
説明 牛久地区の上宿・中宿・下宿に伝わる江戸系囃子で、八坂神社の祭礼日に演じられます。
大太鼓1、小太鼓1~3、鉦1を、八坂神社の氏子のうち小学校2年生から中学校2年生くらいまでの少年たちが演じ、笛は大人が担当します。



祭礼は、毎年7月20日前後の金曜日と土曜日の午後6時から11時まで、お囃子は、各宿の屋台の上で演じられる。

牛久城址 (うしくじょうあと)

所在地 市原市牛久字大塚
築城時期 戦国期
築城主 佐是城主武田氏と思われる。
説明 牛久城の比定地としては、丸山神社の独立台地と県立市原高校のある高台があるが、ここには養老川をのぞむ比高30mほどの要害の地にあり、北側には現在の国道297号が通っており、水陸の交通の要衝を押えることのできる位置にある。さらに周辺が宅地化していることでも分かる通り、根古屋集落を営むことのできる地形でもある。そのようなことでは、城を築くにはふさわしい場所と思われる。台地上は広い畑となっている。長軸は100mほどあり、あちこちに土地を削った地形が見られるが、これは墓地の造成に伴うもので、かなり古いものがほとんどです。台地の西側は自然地形でガラガラと降りているが、その北側部分にCの櫓台がある。さらにその北側は土塁が続いている。これは盛り上げられたものではなく、削り残しに



よるものである。北側が城の入口ということになるが、こちらには腰曲輪が置かれている。これが前面の防御の要と思われる。しかしながら、虎口遺構のようなものは見られない。この腰曲輪に面する1郭の北側部分と、腰曲輪の北側部分とはそれぞれ櫓台形状の高まりABがあるのが目立っている。特に腰曲輪の先のAは、その先の低地に張り出しているので、自然と横矢張り出し形状となっている。この2つの櫓台であるが、いかにも円墳状のその形状とし、櫓台そのものが台地縁に置かれていないということから、本来は古墳であったと思われる、それを櫓台として利用したと思われる。

Aの腰曲輪の下は地形が窪んでいて、堀の名残りであると思われる。このように、本来あったと思われる地形をうまく取り入れた城ですが、周囲の切岸加工は甘い部分も多く、臨時もしくは簡素な城と思われる。



養老川の北側にある台地



台地上の櫓台のあった高地部



Cの土塁部と思われる場所

丸山砦 (まるやまとりで)

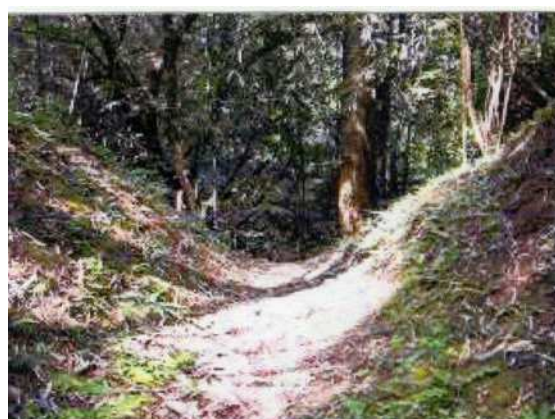
所在地 市原市牛久
築城時期 戦国期と思われる
築城主 佐是城の武田氏と思われる
説明 牛久砦のある場所は、丸山公園内の丸山神社のある一体と思われる。神社のある場所は、鬱蒼とした所で土塁らしきものが見えるが、神社の創立に伴うものと思われる。



確かな独立台地ではあり、城を置いてもよさそうな場所ですが、明確な城郭遺構は見られないので、ほとんど加工しない状態で建てられた砦ではないかと思われるが、確証はない。



神社周囲の土塁状のもの。



北東端にある堀切状の地形

大蔵 (おおくら) 神社・寺院・史跡文化財・城址 大蔵神社

江戸期は大蔵村、金沢村枝郷。

地名の由来は「おお (美称)・くら (削)」で、谷地形という意味。

大蔵神社 (おおくらじんじゃ)

所在地 市原市大蔵字宮山 136 番地

創建時期 寛文 11 年 (1672 年) に石祠合祀

祭神 天忍穂耳尊 神紋左三つ巴

宮司 松井 由香里

由緒・伝説 旧村社。明治 43 年 (1910 年) 和田神社 (字中和田: 大己貴命)・面足神社 (字宮山; 面足命) を合祀。

明治 10 年 (1877 年) に八雲神社 (素盞鳴尊: 寛文 11 年勧請、元は天王宮石祠)・天満神社 (菅原道真: 天明元年勧請・石祠) を合祀。明治 12 年 (1879 年) に愛宕神社 (天軻遇突智命): 宝暦 4 年勧請石祠) を合祀。



大蔵神社の本殿正面



大蔵神社の本殿右側



大蔵神社本殿入口の写真



金刀毘羅大明神・愛宕神社祠

金沢 (かねさわ) 神社・寺院・史跡文化財 白山神社

江戸期は金沢村。大蔵村を分村。草分けとされる家が 4 軒あり、その内箕箸家は名主を世襲したと伝える。地名の由来は、「かね (崩壊地形)・さわ (沢)」で、台地が崩壊した所にある小溪谷という意味

白山神社 (はくさんじんじゃ)

所在地 市原市字上畑 82 番地

創建時期 不詳

祭神 菊理媛命

宮司 松井 由香里

由緒・伝説 旧村社。創建年代、由緒不詳。境内に山王神社 (大己貴命) が祀られている。

白山神社の拝殿正面



長い階段を上ると白山神社



奥から本殿・幣殿・拝殿



年代物の手水鉢が置ける

佐是 (さぜ) 神社・寺院・史跡文化財・城址 八幡神社・明性院(真言宗智山派)・
光福寺(曹洞宗)・佐是城跡・佐是古墳群

佐瀬・佐勢・佐世とも書く。平安期は佐是郷。地名の佐豆(さて)郷・佐三(さざ)郷の遺称地と推定される。郷名は、出雲国佐世郷にいた「出雲宿禰(しゆくおう)一族が当地に移住したことに由来するという説と、佐是三郎国吉という人が住んでいた事から付いたとも言われている。

地名の由来は、養老川の流路が度々変遷を繰り返した堆積地に位置し、付近には沢辺の地名もあるので「さ(狭)・せ(瀬)」で、台地に挟まれた養老川の川底が浅く流れの早い部分を表したもののか。

八幡神社 (はちまんじんじゃ)

所在地 市原市佐是字宮作(鳥居免)299番地
 創建時期 大化2年(646年)に創建、また一説では天平宝字2年(758年)勧請とも。
 祭神 誉田別命
 宮司 露崎 のり子
 由緒・伝説 旧郷社。社記によれば孝徳天皇が夢で誉田別命に東総佐是郷鷹森岡山に祀れと告げられ、大化2年に創建され、

鷹森社と称した。古老曰く白鳳2年(662年)に創立。また一説によると天平宝字2年(758年)に勧請とも。源頼朝が友田丹下尉広次の屋敷に宿泊中に参拝した際、鷲の森と呼ばれた社叢から鷹が舞い降りてきて頼朝の弓に止まった。そこで森を「鷹の森」と呼ぶようになったという。神事に風神祭がある。
 境内には末社が2社あり(素盞鳴命と大己貴命・猿田彦命・別雷命)嘉永6年(1853年)創建の遥拝所もある。

八幡神社の拝殿正面・燈籠



参道の端にある第一の鳥居



境内入口の鳥居と石燈籠・社標



本殿社を傷みから守る建屋



寛政元年に奉納された手水鉢



八坂神社と妙見神社の祠が鎮座



拝殿正面の入口と賽銭箱

延命山光福寺 (えんめいさんこうふくじ) 曹洞宗

所在地 市原市佐是 1097 番地

創建時期 延宝 3 年 (1675 年) 開山

本尊 不詳

住職 狩野 興道

由緒・伝説 光福寺は佐是城跡に創建され、延宝 3 年に開山された。

木更津市真里谷の妙泉寺の末寺となっており、境内には羅漢像や愚痴聞き観音などの仏像が祀られている。



光福寺本堂と手前の石燈籠



本堂入口の上には延命山の扁額



本堂内の祭壇



白衣堂の中の石仏



愚痴聞き観音様の立像



羅漢の森には羅漢仏像



武田氏の佐是城の城域図の石板

明 (妙) 性院 (みょうしょういん) 真言宗智山派 (現在は廃寺となっている)

所在地 市原市佐是 1059 番地

創建時期 不詳

本尊 不詳

住職 加藤 快雄

由緒・伝説 創建時期は不詳ですが、江戸中期にはあったと思われる。
市原郡四国八十八か所霊場の 38 番札所となっている。

佐是城址 (さぜじょうし)

所在地 市原市佐是字武城・内郭

築城時期 平安時代

築城主 佐是禅師円阿 (佐是四郎禅師ともいわれている)

説明

佐是城は、養老川沿いの台地に築かれた連郭式の城で、城そのものは平安時代に築かれていた。

現在のようになったのは、天文年間に武田氏によって増築されたと言われています。

佐是城には、佐是氏名乗る城主がおり、武田氏に属していた。天文21年の椎津の戦いで佐是三郎国信は援軍として出撃して里見氏と戦ったが、敗れて討ち死にし、城も落城したと言われています。



本丸は竹藪となってしまっているが、二の丸・三の丸は木が切られて整備されている。

鳥瞰図は、東南上空から見たものですが、城は養老川を望む比高20mほどの河岸段丘上に築かれ、連郭式に3郭程が並んでいる。しかし、1郭と2郭との間の堀を除いて土塁は崩され、堀は埋められているので、旧状は把握できない。また、1郭の南側の妙性院の周囲には方形に低い土塁堀があったと思われるので、ここに居館があったと考えられる。

佐是古墳群

佐是城付近には多くの古墳があります。佐是9号墳は古墳群の中でも最大級のもので、佐是城の城域の中にあり、駐車場の入口付近にある。この地は養老川西岸の台地上にあり、中世には佐是城が築かれていた。古墳は他の古墳と比べて比較的残存状態は良いと思われるが、後円墳頂には社が建てられている。奈良女子大学の前方後円墳データベースによると「墳丘 形状：前方後円墳：全長61m・後円部 径38m・高さ6.5m 前方部 幅29m 長さ26m 高さ5.5mで、後円部頂に愛宕神社の祠が祀られている。





佐是 13号墳で、一辺16m、高さ3mの方墳



17号墳。江戸時代に三谷塚と活用された

中 (なか) 神社・寺院・史跡文化財・城址 八幡神社・厚福寺 (曹洞宗)

江戸期は中村。もと皆吉村の一部で皆吉新田と称し、寛文年間(1661年~1673年)の養老川の開削工事により皆吉村から独立したと伝わるが、元禄3年(1594年)には既に1村としての村名がある。地名の由来は、以前養老川の大きな曲流に囲まれた地域ことにちなむ。

八幡神社 (はちまんじんじゃ)

所在地 市原市中字上郷60番地
 創建時期 文安2年(1445年)
 祭神 誉田別命
 宮司 松井 由香里
 由緒・前節 旧村社。文安2年に創建された。

八幡神社の本殿正面



参道の燈籠は大正五年奉納



狛犬も石製で大正五年奉納



中社講の石碑が祀られる

厚福寺 (天台宗)

所在地 市原市中52番地
 創建時期 江戸時代初期と思われる
 本尊 不詳
 住職 河邊 堯周
 由緒・伝説 由緒等は不詳ですが、境内(自治会館)敷地内に元禄6年と刻まれた地藏様などが祀られている。本堂はない。



自治会館の入口脇に厚光寺の石碑



元禄6年と刻まれた石碑などが安置



小屋の中に並ぶ3体の地藏様

西国吉 (にしくによし) 神社・寺院・史跡文化財・城址 國吉神社・医光院(真言宗豊山派)
阿弥陀如来坐像・永徳寺(曹洞宗)・吉野1号古墳

江戸期は、国吉村。明治12年(1879年)に起立。市内に同名の村が存在するので、「西」を冠称。室町期に国吉の地名があった。

地名の由来は、「隣村佐是に佐是三郎国吉」なる人住みせる事あり来て村名之によりたるが如し」とあるが、未詳。「くに(くに・ぬぎの転訛)・あし(崩壊地形)」の転訛で、「くき(山頂)・ぬぎ(崩壊)」で、山頂が崩れた地という意味。

國吉神社 (くによしじんじゃ)

- 所在地 市原市西国吉字保千榎209番地
- 創建時期 文明元年(1469年)に創建。
- 祭神 大己貴命
- 宮司 松井 由香里
- 由緒・伝説 旧村社。文明元年に浅井新三郎政重入道が中尾山医光寺の鎮護神社として創建。延宝6年(1678年)に火災により焼失したが、その後地頭三好石見守が貞亮5年に梵鐘を寄付し本殿を再建された。



國吉神社の拝殿正面



左から本殿・幣殿・拝殿



拝殿入口の上には神社の扁額



境内入口の大鳥居と扁額

中尾山医光山 (なかおさんいこういん) 真言宗豊山派

所在地 市原市西国吉185番地

創建時期 文明元年(1469年)

本尊 不詳

住職 市原 英雄

由緒・伝説 文明元年に、浅井新三郎政重入道により創立された。江戸時代延宝年間に本堂などを焼失したが、地頭三好政盛公、大檀那となり諸堂を再建し、以来累代の諸公も当山に帰衣し、幕末に及んだ。

その後、明治6年に再び被災し中門と不動堂を残すのみとなった。

近年、不動堂の全面改修により発見された合同位牌から、旗本三好家は、織田信長によって滅ぼされた「近江小谷城主浅井長政公」の後裔であることが判明した。その位牌には、浅井六公と三好八公の院殿大居士号と没年月日が刻まれている。

所伝の桂昌院木造も、後の検証により、崇源院、すなわち長政公の三女の小督(秀忠將軍の正室で、三代將軍の母)と分かり、お市の方に似て非常な美形と言われている。



医光院の本堂正面



境内入口に建つ江戸期の中門



本堂入口に掲げられる扁額



浅井家・三好家を祀るお堂



中門の右側に建つ宝篋印塔



浅野家・三好家の墓地



阿弥陀如来坐像の安置のお堂

阿弥陀如来坐像 (あみだによらいざぞう) 市原市指定重要文化財

所在地 市原市西国吉2185番地

所有者 中尾山医光山 所有

種類 彫刻

説明 ヒノキ材の一木割矧造りで像高は86.3cmです。上半身の丈を高くとり、両脚部を張り出した姿が印象



的です。ゆったりと均整のとれた姿や抑制のきいた衣文の彫り口などに、洗練された表現が見られ、平安時代の仏像の典型とされていた「定朝様式」を非常に忠実に継承しています。製作年代は平安時代末期の12世紀後半から末頃と推定されます。

安国山永徳寺 (あんとくさんえいとくじ) 曹洞宗

所在地 市原市西国吉687番地
 創建時期 貞応2年(1225年)に創建
 本尊 不詳
 住職 佐久間 弘道
 由緒・伝絶 桓武天皇の苗裔の長柄秀胤の建立で、貞応2年の草創と言われている。

永徳寺の本堂正面



永徳山の本堂内部の祭壇



本堂の正面と寺名の扁額



境内に祀られる地藏様

吉野1号古墳 市原市指定重要文化財

所在地 市原市西国吉1697番地114
 所有者 個人所有でしたが市原市に寄贈
 種類 史跡
 説明

南岩崎の舌状台地上に60数基の古墳で構成されている吉野古墳群。1号墳はその中で最大規模の前方後円墳です。規模は、全長45m、前方部幅は約28m、後円部は約24m、高さは前方部・後円部殿4,5mです。発掘調査は行われていませんが、後円部から採集された円筒埴輪や古墳そのものの外観などから、古墳時代後期(6世紀代)の築造と考えられる。



吉野1号墳の案内看板



1号墳。手前が後円部で奥が前方部

奉免（ほうめん） 神社・寺院・史跡文化財・城址 苗鹿神社・熊野神社・満蔵寺（曹洞宗）白山城
江戸期は奉免村。地名の由来は、「奉免」は官物・雑事などの賦課を免除するというが、第13代成務天皇の頃、菊麻国造・大鹿国直の息子の小鹿直が初めて芳芽原に住み、開墾をして村を作り「芳芽村」と称したということから、元は芳芽であったと思われる。「ほ（秀）・うめ（埋）」で、高くなった所が崩れて埋まった地という意味。

苗鹿神社（みょうがじんじゃ）

所在地 市原市奉免字明王台44
 創建時期 不詳
 祭神 大鹿理命（大鹿国造）また
 武甕槌命・経津主命とも
 宮司 松井 由香里
 由緒・伝説 創建時期・由緒不詳。
 熊野神社境外末社。

苗鹿神社壇殿と石燈籠



苗鹿神社本殿正面の入口



本殿の内部・祭壇が祀られる



手水鉢が置かれている

熊野大権現（くまのだいごんげん）

所在地 市原市奉免字明王台1377番地
 創建時期 白雉年間（650年～654年）に創建
 祭神 伊邪那伎命・伊邪那美命・速玉男命
 宮司 松井 由香里
 由緒・伝説 旧村社。白雉年間に創建されたという。
 境内に疱瘡神社（大己貴命）がある。

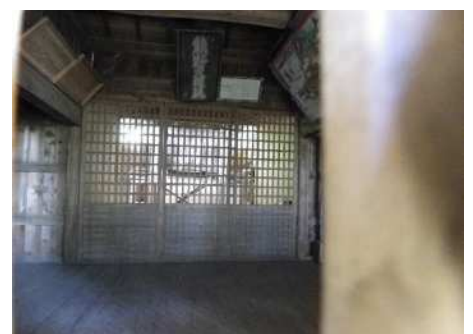
熊野神社の拝殿正面



熊野神社の本殿（右）と拝殿



境内の手水鉢と石燈籠



拝殿内部に熊野大権現の幣額

大智山満蔵寺 (だいちさんまんぞうじ) 曹洞宗
 所在地 市原市奉免452番地
 創建時期 応永年間(1398年~1427年)
 本尊 不詳
 住職 野口 博道
 由緒・伝説 昭和54年に開山500年紀を行っている。

満蔵寺の本堂の全景



満蔵寺の入口の寺標の石柱



本堂入口正面



鐘楼と釣り鐘

奉免白山城 (ほうめんしろやまじょう)
 所在地 市原市奉免字白山
 築城時期 永禄・天正年間
 築城主 露崎大蔵源義基
 説明 奉面の熊野神社背後の比高30mほどの山稜が白山城の跡と言われています。この山稜は北側に延びて、満蔵寺の背後に回り込んでいる。しかし、ここには特に城に関する伝承はなく、白山という地名から城址に認定されたと思われる。

山中には明確に城に関すると思われる遺構などは見当たらない。山中で一番目立ったのはBにある切通し道で、西側の山麓に続いているもので、深さは最大6mほどあり、見方によっては見事な切通しにも見える。しかし、この面に左右のいずれの部分もが、城の郭と呼ばれる地形にはなっていない。ここから北側の山稜に続く道が、小規模な切通しの虎口状態となっている。この両脇は土塁状と言ってもいい地形です。Aの部分には平場となっているが、そこには古墳がある。伝承によると、永禄・天正年間の頃に、露崎大蔵源義基というものが居城としていたというが、この人物がどのような人物かは不明です。



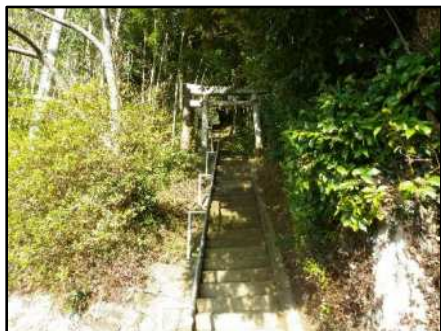
妙香（みょうこう） 神社・寺院・史跡文化財・城址 大宮神社・瀧本寺（曹洞宗）

江戸期は妙香村。南隣の大字奉免字明王台（みょうこうだい）に苗鹿（みょうか）神社があり、当地名との関連が制定されるが未詳。当地には、菊間国造・大鹿国造とその息子の墓と言い伝えられる塚があることから「みょうこう」は「みょうか」の転訛で、古代の国造一族に関係した地名か。地名の由来は、「みょうが（冥加）」の転訛で、崖崩れなどの危険と隣り合わせの地という意味か、または「みお（濤）・か（処）」で、湖沼のある地という意味か。

大宮神社（おおみやじんじゃ）

所在地 市原市妙香字堂部田山1369番地
創建時期 寛保5年（1743年）に創建
祭神 大名持命 神紋 左三つ巴
神主 松井 由香里
由緒・伝説 旧村社。寛保3年に創建されたが災害に遭い、天保5年（1835年）に再建された。

大宮神社の本殿正面



参道の長い石の階段と鳥居



本殿入口の大宮神社の幣額



本殿脇にある2つの祠

瀧澤山龍本寺（たきざわさんりゅうほんじ）曹洞宗

所在地 市原市妙香452番地
創建時期 慶長8年（1604年）
本尊 不詳
住職 畠山 賢陀
由緒・伝説 安土桃山時代の慶長8年に、月山察和尚により開山と記されている。

龍本寺の本堂の正面



瀧本寺の入口の寺標の石柱



歴代住職の葬られる墓地



境内にある石の地藏様

藪 (やぶ) 神社・寺院・史跡文化財・城址 八幡神社・浅間神社・常德寺(天台宗)・大泉寺(曹洞宗)

江戸期は藪村。養父とも書いた。往時大館氏17代末孫定重が、源頼朝に攻められ治安元年(1021年)に落城、天禄3年(972年)頼光が上総太守に任ぜられ下向し当地の幸田に住んだという。源頼光が天延3年(975年)に建立した八幡神社があり、元は皆吉村の神社であったという。

地名の由来は、「やぶ(破)」で、崩壊地を指したもの。

八幡神社 (はちまんじんじゃ)

所在地 市原市藪字八幡台644番地
 創建時期 天禄3年(972年)に鎮齋
 祭神 誉田別命
 宮司 松井 由香里
 由緒・伝説 旧村社。天禄3年に鎮齋とあるが、一説によると天延3年(975年)に源頼光の建立とも伝えられる。もとは皆吉の神社であった地言う。

境内に子ノ神社(大己貴命)や山ノ神社(大山祇命)がある。

八幡神社の本殿と狛犬と燈籠



参道入り口の鳥居



本殿入り口の正面



力石と寛政元年の手水鉢と石燈籠

浅間神社 (せんげんじんじゃ)

市原市藪385番地1付近
 創建時期 不詳
 祭神 不詳
 宮司 松井 由香里
 由緒・伝説 創建年代・由緒不詳。境内に社はないが三峯神社などが祀られている。

神社入口の鳥居と階段



ご神体と思われる石碑



出羽三山の供養塚



神社の鳥居再建の記念碑

常德寺 (じょうとくじ) 天台宗

所在地 市原市藪35番地
創建時期 不詳
本尊 不詳
住職 吉野 堯慶
由緒・伝説 本堂などは災害の為亡くなっている。入口に地藏様が建っている。

本堂代わりに建つ小屋



境内入口に建つ6地藏と子安様



境内にある石仏



境内に建つ石仏群

八幡山大泉寺 (はちまんさんだいせんじ) 曹洞宗

所在地 市原市藪655番地
創建時期 文禄元年(1592年)3月に開山
本尊 不詳
住職 森田 文英
由緒・伝説 文禄元年に創建された古刹です。

大泉寺の本堂の建物



本尊の釈迦如来は最近修復した



参道に馬頭観音や地藏様が



境内には子安地藏様が祀られる

皆吉 (みなよし) 神社・寺院・史跡文化財・城址 御嶽神社・熊野神社・鹿島神社
橋禅寺・吉祥寺(曹洞宗)・観音寺(真言宗智山派)・妙蔵寺(日蓮宗)
木造薬師如来坐像及び両脇侍立像附神将立像・木造金剛力士立像
皆吉城・皆吉堀之内館・皆吉橋禅寺城

鎌倉期は皆吉郷。【吾妻鏡】仁治2年(1241年)7月26日に鎌倉幕府に仕えた陰陽師・文元朝臣が当郷を知行している。江戸期は皆吉村。皆谷村とも呼ばれた。枝郷に山田久保村があり、後に分村した。中村は当村の一部で皆吉新田と称し、寛文年間(1661年~1673年)に当村から独立したというが、

文禄3年（1594年）には既に村名があり、1村として独立していたと思われる。
 地名の由来は、「み（水）・な（接続詞）・あし（崩壊地形）」の転訛で、川沿いの崖地という意味。

御嶽神社（みたけじんじゃ）

所在地 市原市皆吉字谷72番地
創建時期 不詳
祭神 日本武尊
宮司 松井 由香里
由緒・伝説 旧村社。皆吉橋禅寺城跡に建つ神社で、境内に大宮神社（大己貴命）あったが明治10年に合祀した。
 橋禅寺の境内にも御嶽神社があるが、こちらの神社の分霊かは不明。

御嶽神社の本殿の社



御嶽神社入口の鳥居と石階段



本伝内にある内宮の祭壇



合祀された大宮神社の社

熊野神社（くまのじんじゃ）

所在地 市原市皆吉字渋前1282番地
創建時期 不詳
祭神 伊弉諾命・伊弉册命 神紋 左三つ巴
宮司 松井 由香里
由緒・伝説 旧村社。創建年代。由緒不詳。
 明治10年（1877年）に春日神社（天皇屋根命）訶具都智神社（天軻遇突命）巖島神社（市杵嶋姫命）諏訪神社（建御名方命）を合祀。境内に八坂神社（素盞鳴命）がある。

熊野神社拝殿と狛犬



熊野神社入口の鳥居と拝殿



熊野神社の本殿正面



手水鉢と奥には石燈籠

鹿島神社 (かじまじんじゃ)

所在地 市原市皆吉字天下1834番地
創建時期 不詳
祭神 武甕槌神 神紋 左三つ巴
宮司 松井 由香里
由緒・伝説 旧村社。創建年代・由緒不詳

鹿島神社の本殿の社



参道への石段と木造の鳥居



本殿正面入口



本殿内部の一宮と祭壇

橘禅寺 (きつぜんじ) 曹洞宗

所在地 市原市皆吉6番地
創建時期 天平9年(737年)に開創
本尊 不詳
住職 新野 正明
由緒・伝説 天平9年に行基により開創されたと言われ
延暦21年(802年)に伝教大師、天長
10年(833年)に弘法大師空海の入山が
伝えられる、薬師堂にある薬師如来の体内に
ある像は行基の作と言われ、往時は眼病者の
参詣を集めた。また、所蔵の木造薬師如来坐像及び両脇侍立像附神将立像と木造金剛力士
立像は、千葉県指定文化財になっている。



橘禅寺の本堂の建物



橘禅寺薬師堂の建物



薬師堂内には文化財が安置



境内にある石地藏群



歴代住職の眠る墓地



橘禅寺境内手前の平和の女神像



橘禅寺の森の案内看板

橘禅寺境内にある御嶽神社



神社境内に入る石製の鳥居



橘禅寺城の物見台と言われる建屋



境内にある本殿の社か

木造薬師如来坐像及び両脇侍立像附神将立像 (千葉県指定重要文化財)

所在地 市原市皆吉6番地(橘禅寺所蔵)

作成時期 弘長2年(1262年)

製作者 常陸公蓮上と信濃公新連の両仏師

説明 薬師如来像は三尊形式をとっており、左脇侍は日光菩薩、右脇侍は月光菩薩です。中尊の薬師如来像は像高83cmの寄木造り、両脇侍像は像高110cmの割矧造りです。三尊ともカヤ材部の素木彫眼で瞳には墨を入れる。頭部と体部は別材でいずれも前後に割矧ぐ手法で、三尊同時期に造られたものです。

薬師如来坐像の背板内側には墨書があり、弘長元年(1261年)に橘禅寺が焼失したので翌年に常陸公蓮上と信濃公新連の両仏師により新しく作られたと記されている。

両脇侍立像の袈裟には宋様式が採用されており、様式の変遷を示し、かつ製作年代の明らかな資料として彫刻史上貴重な作例です。

神将立像は、両像との像高106cm、彫眼で一木造り、その1はクス材、その2はカヤ材です。昭和63年の解体修理の結果、橘禅寺が焼失する前の製作仏像であることが判明した。

「千葉県教育委員会・市原市教育委員会の掲示看板より」



▲月光菩薩 薬師如来 ▲日光菩薩



▲その2 ▲その1

木造金剛力士立像（千葉県指定重要文化財）

所在地 市原市皆吉6番地
所有者 橘禅寺所蔵
製作者 常陸坊及び尾張坊覚念の両仏師
説明 両像とも松材の寄木造りで、像高は240cmです。大づかみな肉どりは量感あふれ、憤怒の表情に迫力があります。阿形像の後頭部内面にある墨書には「弘長三年（1263年）八月十七日」の紀年銘と「常陸坊」、「尾張坊覚念」の両仏師名が記されています。また吽形像には「橘寺聖僧」と「文永年間（1264年~1275年）」の銘があります。本尊の薬師三尊の墨書にも「常陸公」「弘長二年」とあることから、一連の造像であることが分かります。



左が吽形像、右が阿形像

観音寺（かんのんじ） 真言宗智山派
所在地 市原市皆吉842番地
創建時期 不詳
本尊 不詳
住職 加藤 快雄
由緒・伝説 元禄年間の墓石などがあるので江戸時代にはあったと思われる。本堂などは立っていない。

出羽三山の行者小屋が建てられている



入口の石地藏様



なぜか三猿の石碑が



吉祥寺 (きちしょうじ) 曹洞宗

所在地 市原市皆吉1474番地
 創建時期 不詳
 本尊 不詳
 住職 小室 弘道
 由緒・伝説 境内の墓碑に、貞享元年のものが
 あるので、この頃にはあったと思う。

吉祥寺の本堂全景



明治時代の小学校跡地の碑



境内に如来様の石仏が多く並ぶ



境内に石地藏も鎮座する

法輪山妙蔵寺 (ほうりんさんみょうぞうじ) 日蓮宗

所在地 市原市皆吉1321番地
 開創時期 元和3年(1617年)に開創
 本尊 不詳
 住職 高鍋 隆孝
 由緒・伝説 妙蔵寺は、元和3年に日呈上人により
 開山された。日呈上人は、妙蔵寺住職
 後、本山の住職を継承し、東西に法華経
 を広宣流布された。当時は妙蔵寺には本堂
 しかなく、寺の行事にも限界があったので
 平成14年に庫裡と客殿を新築した。



妙蔵寺の本堂全景



境内に聖観世音菩薩の銅像



近年に造られた宝塔も奉納



十三重の宝塔も置かれている

皆吉城址 (みなよしじょう)

所在地 市原市皆吉

築城時期 戦国期

築城主 不詳

説明 皆吉城は、皆吉団地の東南側の比高50mほどの広大な山地にあったと言われている。城址には土塁などが残されているが、城主などは不明です。



皆吉団地より皆吉城址の山地を見る

皆吉堀之内館 (みなよしほりのうちやかた)

所在地 市原市皆吉字堀之内

説明 皆吉堀之内館は、皆吉城の東側の麓にあり、堀の内地名から皆吉城の平素の居館が営まれていたところではないかと思われる。詳しいことは不明ですが、妙蔵寺の辺りがその推定地と言われていますが、遺構などは見当たらない。

皆吉橋禅寺城址 (みなよしきつぜんじじょう)

所在地 市原市皆吉6番地

築城時期 戦国期

築城主 不詳

説明 皆吉橋禅寺城は、橋禅寺のある比高40mほどの台地上にあった。橋禅寺は由緒のある寺院で、ここには千葉県指定の重要文化財があります。弟橋姫神社のある付近が城址の最高所で、長軸40mほどの円形で、西側に主郭か物見台が置かれていたと思われる。



その下の橋禅寺のある所が一番広く、長軸が80mほどある2郭があったと思われます。この郭の周辺には腰曲輪が造成されており、2郭と3郭の間には登城路があった。現在、車道とは別の通路の存在は見当たらないので、2郭の斜面を斜めに上がって行く坂虎口があったと思われる。その下にある羽衣観音像が建つ広場が3郭と認められる。



1郭のあった処にある物見台



3郭から2郭に上がる堀切路



3郭のあった処に建つ羽衣観音

本資料は、次の資料を参考に作成しました。

- ・市原市埋蔵文化財センター遺跡ファイル
 - ・ちょっと便利帳（日本の元号・年代早見表）
 - ・全国遺跡報告総覧
 - ・日本の城郭・城址（千葉県版）
 - ・八百万の神
 - ・市原市・宗教法人一覧
 - ・かずさ国府はどこ？
 - ・市原の城郭と国府跡をたずねて
 - ・Wikipedia- 市原郡
 - ・市原市歴史と文化財シリーズ
- ・そのほかに、紹介した寺院・神社の関係者の方々の協力を頂きました。

牛久地区の地名の由来と史跡と文化財

発行・編集 市原の歴史を知る会

住所 市原市能満1020番地1

連絡先 090-3545-1113